

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
 神奈川 碩心会 発行

62年8月現在 会員数  
 逗子地区 179名  
 葉山地区 274名  
 大船地区 64名  
 (合計) (517名)

62年8月号 (181号)  
 発行 者 萃 岳  
 編 集 者 岳  
 中 村 愛 岳

## ◎ 県本部 指導者講習会

と き・62年8月23日(日)9時より受付  
 9時20分開講  
 ところ・防大講堂  
 横須賀駅より防大行バス  
 京急馬堀駅よりタクシ-  
 審査テキスト・吟道手帳忘れずに

## ◎ 第92回 県本部吟行会

と き・62年9月12日(土)15日(祭)  
 ところ・宮崎・青島・島原・長崎他  
 (碩心会参加17名)

根岸岳萃 加藤岳相 沼田沈岳 中村幸岳  
 千葉剣岳 千葉香岳 岩崎恵岳 森田暁岳  
 森田嶺岳 村田静岳 西村昌岳 木村松風  
 重松由風 宇都宮徳風 田中明風 松井正風  
 大屋正風

## ◎ 碩心会 秋期審査会

と き・62年9月20日(日)10時開始  
 ところ・逗子市立図書館ホール

## ◎ 第43回 県本部吟道大会

と き・62年10月10日(祭)  
 ところ・横須賀文化会館

## ◎ 教本第五巻発行

定 価・三百円

◇支部毎にまとめて広瀬先生方へ申込

## 皆伝合格 (五月一日付)

左記の方々が右合格されました。おめで  
 とうございます。

66 荒木笙岳 68 西村昌岳 73 佐竹扇岳  
 74 高梨以岳 75 沼田真岳 76 高梨誓岳  
 78 綱川晃岳 731 加藤奨岳

## 月報「碩心」創刊十六年目に

この記事を書くにはまず、綴ってある創  
 刊号に目を通すことになる。1〜45号三井  
 先生、46〜69号を加藤(圭)先生、そのあとを  
 ひきうけて現在に至っております。頁をめ  
 くり過ぎし日を思い感無量です。よりよき  
 月報にするため、ぜひ皆さんの御協力を。

## 詩吟は人の心を ゆさぶる語り方

釜利谷中学二年 久保田 輝

こんにちは。僕は今までこの詩吟のようなものを知らなかった。初めて聞いてびっくりしました。詩吟という言葉さえも知らなかったし、この語り方も知らなかったのですけど、これには人の心をゆさぶるような力があると思いました。

今まで、短歌や俳句はふしなどつけずに鑑賞してきました。けれど、この方法では何回か繰り返し読んでも、どこがよいのかつかみにくく、またそっけなく読み終わってしまうのでした。

でも、この詩吟のような語り方には、短歌に秘められている、作者の感動がにじみ出ているような感じがしました。この語り方こそ真の語りだと思いました。この語りで歌われた歌は生き物のように人の心をゆさぶると思います。

僕はこれから何回か、歌というものに出会いたいと思いますが、この詩吟の精神を忘れないようにしたいと思います。何か、歌だけでなく、現在の生活へも関係するように思えました。詩吟を歌うような気持ちで生活をしたなら、僕の生活はガラリと変わると

思います。悪いことを思っていたりしてもとてもくだらないと思うにちがいないと思います。

この世でもっともくだらないのが戦争です。日本が負けた、戦争はおしまいなんてもんじゃなれないと思いますネと書いた本があります。その通りだと思っています。この詩吟が世界中に広まったらどんなに素晴らしいことだろうと思います。

この詩吟をやっている先生方が目に浮かぶようです。こんないいものを聞かせて下さってどうもありがとうございます。いつまでもお元気で詩吟をやして下さい。僕もがんばります。

## 詩吟は今の人にも 通じると思う

釜利谷中学二年 富永陽介

守谷先生はじめまして。この前は、御多忙のところわざわざ歌って下さりありがとうございました。

まず私がびっくりしたのは、三十首もの短歌を続けて歌ったのに、のどもかれず、最初と全然違っていなかったことです。私など二首目でもうダメです。

又私は詩吟というものを初めて聞いたのですが、こういう昔から続いてきたものは、

今の人々にも通じるところがあると思います。日本風の歌を詩吟で歌うと、とてもあっていて、とても風流な感じがしました。

私達のように都会に生活していると、うわべの美しさに慣れ、平凡で深みのない生活に満足しがちですが、詩吟というのは、今の私達にとって必要なことだと思います。そしてこれからは、この詩吟を受け継いでいかなければならないと思いました。

話はそれますが、私の父も詩吟をやっていたそう。これも何かの縁でして、これからも何かございましたらよろしくお願ひいたします。本当にどうもありがとうございます。

## 朗詠を聞いてくれて ありがとう

守谷 崇 岳

この度は思いがけなく、皆さんの歌を読ませていただき、チャンスを得、とてもうれしく思いました。元気で、ありのままの天真らんまんな目で感じ歌ったものだからです。私も思わず六十余年前の、皆さんと同じ頃に思いを馳せて、当時作文の時間に作った歌や、恩師のことを思い出しました。只申し訳なく思ったことは、皆さんの歌の心を十分に表現しきれなかったことと、幾人

かの方々の大事な名前を読み違え、大変失礼申上げました。

加藤先生は常に忙中閑「一寸の光陰軽んずべからず」を見出だしては出席され、その熱心な姿勢には心から敬意を表しております。間もなく日本詩吟学院の六段位になられると思います。先生からよく聞く言葉の中に「うちの学校の子供達は礼儀正しくみんなすなおで、どの子もみんな可愛いんですよ」と。歌を通じて間接的ですが「先生の言葉通りだな」と感じた次第です。

「詩吟は礼に始まり、礼に終る」のです。先生や皆さん方の貴重な時間をいたゞき、私のつたない朗詠を聞いていたゞき、それに、何かしら感じ取って下さったことを、大変うれしく思います。かつて、知人の或る中学校校長先生が申された言葉に、「この朗詠を聞いて日本人に生れた喜びを感じた」と云われたことがあります。

石川啄木の歌に

たわむれに母を背負いてそのあまり

かるきに泣きて三歩あゆまず

と云うのがあります。この歌を朗詠する時、子供の、親に対する情がにじみ出ていて、深い感動にかられ目がしらがあつくなるをおぼゆるのです。富永君の母を思う心が、とてもうれしく、是がまことの親子の情で、

それは尊く、生涯忘れてはならない心です。又その心を、相手を思いやる心を大切に、多くのお友達にも接して下さい。それはやがて君の伴せにつながる心だからです。かの有名な、堀口大学先生の言葉に「花は色人は心」とあります。

みなさん、あの雄大な富士を見て下さい。登る道は各所にあり、又けわしい処もたくさんあります。でも嶺はたゞ一つ。己の選んだ道をたゆまず前進しましょう。「人生の行路平坦ならず」と云われます。人間は独りでは生きて行かれません。衣・食・住だけを考えてみても、多ぜいの人々の力に依っている事がわかります。お互いに思いやり、友情を大切に、あせらず常に豊かな心で一歩一歩若木の伸びて行く姿そのまゝに、次の世代の良きにならない手になられます様、心から希望します。

久保田君の感想文もくり返し読ませていたゞきました。仲々しっかりした生徒さんだなと心強く思いました。その意気で頑張ってください。両君の感想文はチャンスがあったら、私達の機関誌にのせてもらうつもりです。

終りにのぞみ、皆さん、先ず健康で、みんな仲良く助け合い、そしてたゆまぬ努力を。七月二十日

二年二組の皆様へ

おそくともしづかにあゆめたゆみなく

行かば雲居の富士の高嶺も



前記は釜利谷中学二年の生徒さん達と守谷崇岳先生との、短歌の朗詠を通じて、心あたゝまる感想文のやりとりです。

一色A支部の加藤祥山さんは、釜利谷中学二年生を受持っていられますが、たまたま隣の〇組担当の先生から、生徒達全員の30首の創作短歌をのせたプリントを受取り、それを守谷先生に手渡されました。これを見た守谷先生は、生徒さんの純粋な心にひかれ、30首全部に符付けをし、又テープに吹込み〇組に送られました。そのテープを担当の先生が、ふりかえ授業の時間に生徒さんの前で公開され、そして前記のような感想の御礼の手紙が守谷先生に寄せられました。

受取った守谷先生は又々感動、葉山町社会教育委員、青少年育成委員という立場から、前記の御礼の手紙を出されました。

私も記事を書き写して、多感な年頃の皆さんの純真さが身に沁みて嬉しく思い胸打たれました。担任の先生ありがとう。

## 練吟メモ 九の訓よみ

○詩吟では「九月十日」「九月十三夜」があり、一般社会では「三三九度」や「三拝九拜」など、九を「ク」と読んでいる言葉がいくつもある。では詩吟の段位「九段」の場合、クダンが正しいのか、それともキウダンが本当なのかと、許証授与式のと話題にしていた会員があった。

○「九月十日」だが、この詩は今から一〇八六年も前の平安朝時代に作られた。そして、さらにその百年以上前の奈良朝時代には、「九九八十一」から始まる「九九」がもう存在していた。ご存知の方も多いと思うが、萬葉集の中に数首「九九」をもじった歌が入っており、その内容からかなり広く九九が使われていたことが推察される。○右のことから、九は「ク」と読むのが正しいかと思われるが、字典を引くとそうではないことが分る。字典に出て来るのは九品(クホン)のような仏教語を除くと、ほとんどが「九天」とか「九重」とかの漢音の熟語ばかりである。ところで、漢数字の十から十までの読みはイチ・ニ・サン・シからク・ジュウまですべて「呉音」であることに注意が必要。熟語やことわざの読みが

漢音であるのに、漢数字の読みが呉音であるのはなぜか。「九九」と関連し、この辺に解明のカギがあるように思える。因みに九をキウと読めば漢音である。

○慶大名誉教授であった故池田弥三郎先生は、日本語に関する著作が多かった。「漢数字の訓みは、全く一本通った方針がないから、外国人には理で解くわけにはいかない。四・七・九は、耳にわかり易いようにという商人のそらばん読みでヨン・ナナ・キウなどというが、さすが赤穂ヨンジウナナ士とはまだなっていない」とお冠だが「でも四十九才でも困るので四十九才となった。明治三十三年から西暦千ヒャクは千キウヒャクだから仕方ない」と、慣行による言葉の定着を是認されている。

○結論を急ぐ。日本放送協会の放送用語は標準語として現在最高に権威がある。ここで定められている「段」位の呼称を次に掲げるので、参考としていただきたい。

イチダン(吟界では初段)・ニダン・サンダン・ヨダン(ヨندانとも)・ゴダン・ロクダン・ナナダン(シチダンとも)・ハチダン・クダン(キウウダンとも)・ジュウダン

※放送には右の( )書は使用していない。以上大雑把で説明不足はお許しを。

## 葉山の夏のうつりかわり

海のシーズン到来。土曜日の夕方、詩舞の稽古ありで、一方交通、渋滞等頭に入られて早目に家を出たが、何のことはない、バスはすぐにきて、昔と変わったなアと思いつい何か寂しくも感じた。

昭和30年代は、逗子も葉山も芋の子を洗うような混雑だった。そして39年湘南有料道路が出来て、逗子は砂浜が狭くなり、逗子駅をおりる海水浴客のほとんどが葉山行のバスに乗り、その頃のバスはそれこそブラさがるような満員で、二・三台は見送らねば乗れず、諦めて逗子、葉山間を歩く人達で道路は賑やかでした。次は自家用車時代の渋滞、そして51年、京急三崎線の開通により、三浦海岸に客足を奪われ、更に横・横道路が出来、道路交通事情が大きく変った。又レジャーも大型化し、今年は特に円高による海外行が多いという。

個人貸しの海の家など数える程しかなかったり、ひと頃の、人と車でごったがえした葉山の夏を思うと、栄枯盛衰は世の常。を感じ、何か寂しく思われる今年の葉山の夏です。

(移 籍)

803 嵐田光泉 大船A支部より銀詠支部へ